

あさひかわ男女共同参画だより

Harmony



平成23年度 旭川市男女共同参画シンポジウム2
平成23年度 旭川市男女共同参画リレー講座 概要6
平成23年度 あさひかわ男女共同参画川柳入賞作品 DVDをご活用ください7
市内男女共同参画団体 リレー紹介② ウィメンズネット旭川8



(発行)
旭川市総合政策部政策調整課 (男女共同参画担当)
〒070-8525
旭川市6条通9丁目46番地
TEL: (0166) 25-5358
FAX: (0166) 23-8217
E-mail seisakuchosei@city.asahikawa.hokkaido.jp



平成23年度 旭川市男女共同参画シンポジウム

『自分らしく輝く！～女だから、男だからの意識にさようなら～』

日時：平成23年10月15日(土)13:00～16:00

会場：旭川市民文化会館 2階小ホール

【基調講演】13:15-14:45

女と男、笑いでコミュニケーション

講師：桂あやめさん 神戸市出身。1982年、運転免許を取るという条件をクリアして桂文枝師匠に入門。女に落語はできないという固定観念の壁に、自作の落語で風穴を開けるべくOL、女子大生、おばちゃん、嫁姑など、身近な女性を主人公にしたネタを創作し続けている。

(落語家を目指して)

大阪で落語家をやっている桂あやめと申します。

私は1964年の東京オリンピックの年に神戸で生まれました。私が落語家になった今から30年ぐらい前は、やりたいことを全部叶えてしまう松田聖子さんのような生き方が、段々と当たり前になってきました。それでも落語家は女には絶対無理やと言われておりました。

なんで落語家を選んだかという、落語が好きだったから。落語家になる方法はただ一つ、好きな

師匠を選んで、自分が弟子にしてくださいとお願いに行くしかないんですね。

私が落語と出会ったのは、中学校行事の落語観賞のときでした。一人の人が何役も会話形式で進めていって、そしてオチで突然終わる。この芸が気に入って、

落語会に通ったんです。素人落語会の前座や近所の喫茶店でやらせてもらって、笑いや顔さが返ってくる体験をしますと、もっと沢山の人の前で喋りたい、職業にしたいと思うようになってきたんですね。

誰に聞いても、女には無理やと大反対されまし

たが、ありがたいことに落語の世界は歌舞伎の世界と違って、女人禁制ではないんです。ある日、憧れの桂文枝(当時、小文枝)師匠に弟子入りのお願いをしようと、楽屋口で待ち伏せしてましたら、話すことができました、「車あんねんけどな、免許持ってる弟子おらんさかい、電車できてん。車もほこり被ってるわ。」と仰ったんで、「免許を取ったら弟子にしてもらえますか」って聞いたんです。「ほな、運転手やってくれるかあ」という流れになって。師匠の気が変らんうちと思うて、島根の合宿所行って17日間で免許を取ったんです。その後、師匠に免許を見せて「弟子にしてください」と。師匠も無下にできず、「一遍来てみるか」となりまして。

(男女共同参画に支えられた?運転)

次の日から弟子になって、大阪のごみごみした道で運転することになりました。師匠のお家に行ったらクラウンというおっきな車が私を待ってたんです。大師匠と今日入った弟子ですけども助け合わねば目的地にたどり着くことはままならないんです。もうどっちが男や女や偉いや言うてられへんですね。阪神高速環状線の合流地点でも、師匠が後ろの車に頭下げて「えらいすんません、ちょっと入れとくなはれ」って大きな声で愛想笑いして、車停めてもろて、合流できるようにしてくれるんです。一日の仕事が終わって、駐車場に入れる時には、師匠は雨の日も風の日も先に降りて「オーライ、オーライ」と誘導してくれました。早くも30年ほど前に男女共同参画が始まっておりました。

(修行～試行錯誤を経て)

内弟子修行の3年間は、師匠が衣食住を持ってくれて、ただで稽古をつけてくれるんです。名前もただでくれて、それで舞台上がりますとなんばかのお金がもらえる。誰に恩返しすんねんと言いますと、いつか自分の弟子に同じようにしてあげる。それだけで江戸時代から平成の世の中にま



桂あやめさん

ですって連携プレーで受け継がれているんですね。

恵まれた環境にある落語界ではありますが、デビューしても最初は苦労しました。そもそも落語というのは、男性の噺家が話すように作られているんですね。私が高座にあがると、まくらではお客さん笑ってくれるんです。でも、落語に入りますと、女の格好や声がお客さまの想像の邪魔になってしまう。登場人物が男か女か戸惑ってしまうんですね。当時は、短髪にして男の着物を着てみたり、古典落語の登場人物を無理に女に入れ替えてみたりといろいろ試していましたね。

あるとき、女子大生が主人公の創作落語を作ってみました。同世代の女子大生を演じるので、めちゃくちゃ楽しかったですけども、客席も聞いてて違和感がないみたいで笑いが返ってきたんです。5年目ぐらいの時には、新人コンクールで最優秀新人賞をいただくことができ、「それでええねんで」と言われたような気がして、以来新作を作り続けています。

（得意分野を生かして）

落語の世界に入った時は、今思えば突っ張ってるところがありました。私が下っ端らしく先輩みんなの鞆を無理やり持ってトロトロ歩いてたら電車1本乗り遅れてしまいまして。それやったら無理せんと、鞆は持ってもらったまま、先輩みんなの切符を買いに行けば早い電車に乗れたかもしれない。自分ができることや得意なことを探してやると、周りも自分もスムーズに動けるってことが段々とわかってきたんです。

（嫌なことも笑いにすれば）

ある時、大喜利コーナーで女の私にだけセクハラのような質問やったんで反発したんですけどもね。終わってから先輩が「落語家やったら笑いで返さんかい」て。確かにそこで面白い答えを返すと、私もおもしろいお姉ちゃんになれるんです。

お笑いの世界は、嫌なことはすべて笑いにして乗り越えていくんです。本人がハハハと言うてるからこそお客さんも笑えるわけね。コンプレックスを強調して笑いにすると、それが一番の武器になるんです。

例えば漫才師が書いた「ホームレス中学生」。悲惨な経験をおもしろいように考えて表現したことで、自分の財産になってお金や名声を生み出したわけです。封印してたら心の傷として残るだけ。

私自身も怖い経験がプラスアルファになったことがあります。連続殺人犯に首を絞められ死にかけまして、事件後、記者会見や取材が続きました。でも、気づけば喋ることが最大のリハビリになってたんです。自分の中から嫌なことを出して、人に受け止めてもらおうと、人の優しさやらなんやら元気になれるパワーが返ってくる。そして、喋っているうちに、貴重な一番のネタのように変化してくれました。

事件後はじめての楽屋で、どんな風に接したらいいか悩んでたんですけども、先輩が事件のことをネタにして笑かしてくれたんです。そしたらその場の私も落語家仲間もみんな楽になって、腫れ物に触れるような空気が入れ替わって居心地良くなったんです。

今、不自由があったおかげで努力して武器ができ、ほんとに良かったなって思ってます。最初はハンディと言われた女であることが、今や私の一番の特徴になったんです。辛いことや嫌なことも見方や表現を変えるだけで、笑いになって、元気になれる。自分のええとこをうまいこと生かしていけたら自分も楽やし周りも楽やということですね。

（これからの自分）

落語家には定年がありません。40代になってやっと古典落語がちょっとできるようになってきまして、80代になったらもっと女っ気が抜けて、芸が広がるんじゃないかと思うと、年をとることが非常に楽しみです。



【パネルディスカッション】 14:55-15:55

コーディネーター

勝浦恭子 さん ライター・編集者

パネリスト

桂あやめ さん 落語家

田澤尚英 さん ブリコ(株)代表取締役。居酒屋など飲食店を中心に10軒を経営。「旭川餃子」「旭川しょうゆ焼きそば」「あったか旭川まん」など、地元の農産物を使った名産品づくりにも取り組む。旭川経済を元気づけるため、各種イベントの企画など幅広く活動している。

白木雪乃 さん 旭山動物園飼育展示係。あざらし館、両生類・は虫類舎を担当。飼育のかたわら、あさひやま“もっと夢”基金へのイラスト提供やソロモン流(TV東京)出演など動物園の更なる魅力づくりに努めている。

(自己紹介)



白木雪乃 さん

白木 潜水士の資格を取るという条件をクリアして旭山動物園の仕事に就くことができました。子どもの頃は、自然豊かな環境で過ごし、

だんだんと野生動物に興味を持つようになりました。その後、動物本来の性質を大切にする旭山動物園に強く魅かれるようになっていきました。

動物園での作業は体力を求められることも多く、男性にはかなわない面があります。でも、得意な絵を描くことで、動物園を盛り上げて行くことに役立つと気づきました。今、チームで仕事することの大切さを痛感しています。

田澤 学生時代、飲食店や旅館でアルバイトをしていました。お客さんとのコミュニケーションから、幸せをもちかえってもらうことが、相手だけではなく自分の充実感につながることに気づきました。その後、笑顔を見たい一心で、色々なことに取り組み、気づけばもう27年が経っています。

(家族観など)

勝浦 仕事を離れたプライベートなことや家族のことをお聞かせください。

桂 娘が幼かった頃、楽屋に連れて行くと、男女関係なくみんな面倒を見てくれました。落語家

は平日休みの人も多く、男性であっても主体的に子育てに関わる人が多いんです。娘を育てる上で、女だからこうなさいと言ったことはないですね。

田澤 出勤時には子どもを保育園に送っています。仕事柄、家族揃って夕食をとることはできませんが、その分、休日は家族との時間を大事にしています。



田澤尚英 さん

白木 結婚したいと思っていますが、今は、仕事が好きでやめる気はありません。家事の大好きな男性が理想の結婚相手です。

桂 私は24歳で結婚。なんでもかんでも完璧にこなそうとして3年で疲れてしまいました。今は男性が家事や育児に主体的にかかわることが普通になってきたように思います。性別にかかわらず、お互い助け合える関係がいいですね。

(男と女 仕事に取り組む姿勢など)

勝浦 仕事・プライベートで、男性女性という部分で感じるものがあれば、お聞かせください。

田澤 男性が得意なこと、女性にしかできないことがあるから、お互いを認め合い助け合う関係が大切だと思います。イクメンというの去年くらいから流行っていますが、時代が求めていることなのでしょうね。

白木 動物園に入りたての数年前は、年配男性の職員の中には、女性に対して偏見を持っている人もいました。認められなくて頑張ってみると少しずつ受け入れてくれるようになって、男も女も関係なく、個人として認められるようになりました。

桂 落語界への女性の進出が最近進んできて、大阪では、ここ5年で10人増えました。それまでは10年で1人増える程度でした。NHKドラマ「ちりとてちん」の影響があるようです。

男女平等といっても、女性だけが子どもを産むことができ、出産にはタイムリミットがあるという現実があります。落語界で活躍してもらいたいと思うのと同じように、出産という女にしかできないことを経験してもらいたいと思います。

現在、大阪の女性落語家はおしなべて子どもがいます。ドラマでは、主人公に子どもができて引退というストーリーが古い体質を表現しているようで残念でした。



勝浦恭子 さん

勝浦 働く女性は出産年齢を気にしています。都会で忙しく仕事をしている人ならなおのことでしょう。子育てしながら落語家として活躍している方々は本当に素晴らしいですね。

桂 東京の女性落語家で、結婚・出産している人は少ないようです。東京の方が男社会の色が強くて、脇目も振らずに落語家道をまい進しなくちゃいけない雰囲気があるのかもしれないですね。

(将来の夢)

勝浦 キラキラ輝いているみなさんから今後の夢を語っていただきます。

白木 野生動物が今後も安心して暮せる未来を作り、残すのが夢です。動物たちが生きていける環境というのは、人間にとっても安心な環境。自分一人ではできなくても、同じ意識を持った人を増やし、後世に伝えなくてはと考えています。

田澤 今の白木さんの話に関連して言えば、私も自社で発行しているポイントカードのうち、お客様のポイント失効分を動物園に寄付する活動をして、動物園を応援しています。

私の夢は、食材の宝庫である旭川の良さを全国に伝えていくことです。旭川のおいしい料理は、これまで、飲食店に足を運ばないと口にできませんでしたが、全国、全世界の食卓に並ぶことを夢見ています。

桂 5年前、天満宮という神社の一角に寄席が落成しました。寄席ができてから、落語家が40人以上増えたんです。

神社から天神橋商店街が連なっていますが、寄席と商店街がお互いに盛り上げてあって地域が元気になってきました。そこに笑いが生まれると一番うれしいですね。



桂あやめ さん

(おわりに)

勝浦 桂さん、今後とも活躍していただくことを期待しています。田澤さん、旭川の食を世界へ広めていただくよう応援しています。白木さん、自

分の言葉でまっすぐに気持ちを表現していただき、すがすがしい気持ちとなりました。

お三方から、今日は元氣や勇氣をいただくことができました。どうもありがとうございました。



シンポジウムを終えて・・・

今回のシンポジウムは、企画段階から市内の男女共同参画推進団体の皆様と情報交換を行い、計画を進めてまいりました。当日も受付や誘導、片づけまで沢山の方にボランティアとして御協力いただき、無事終わることができました。この場を借りてあらためてお礼申し上げます。

参加された方々からいただきましたアンケートには、次のような御感想や御意見がございました。

- ・起きた出来事をどう捉え人生の糧としていくのか、気の持ちようでプラスにもマイナスにも変わる話は興味深かった。
- ・パネリスト3人の夢に向かって進んでいく強い思いに感銘を受け、今後の活力をもらった気がしました。
- ・基調講演はあっという間の90分でした。できれば一席聞きたかった。
- ・もっと多くの人に聞いてもらいたかった。

このほかにも沢山の御意見等をいただいております。今後の事業の参考とさせていただきます。

これからも、シンポジウム等を通じまして、男女共同参画社会の実現を目指してまいります。皆様方の御協力をお願いいたします。

男女共同参画担当課長 佐藤 美恵子

平成23年度 旭川市男女共同参画リレー講座 概要

平成22年度に策定した「あさひかわ男女共同参画基本計画」で設定した目標を達成し、市民のみなさんの男女共同参画に対する理解を深めるため、本年度からこのリレー講座を実施しました。

①旭川市における男女共同参画について

平成23年8月26日（金）

旭川女性会議会長 東郷明子さん



男女共同参画はどのように進められてきたのか。国内、道内、旭川市のあゆみについて、自身の海外派遣、視察での体験談を交えながらお話しいただきました。

また、行動する女性のネットワーク（AWN）による東北大震災での支援を通じて、他地域とのネットワーク構築の重要性や、今後の旭川市のまちづくりについてお話しをいただきました。

②女性の社会進出における課題について

平成23年9月7日（水）

旭川ソントクラブ会長；税理士 薄井タカ子さん



税や社会保険の仕組みが男女共同参画の推進の妨げになっており、本人の意識や能力が抑え込まれてしまっている現実があることを税理士の立場から具体的にお話しいただきました。

また、女性の活躍のためには、教育における男女共同参画が大変重要であることや、女性管理職をもっと増やさなければ女性の障害となるものが取り除かれないとのお話しをいただきました。

③女性起業家からみた現状と課題

平成23年9月29日（木）

有限会社ストーンプレス代表取締役 大谷裕美さん



女性経営者として多忙な毎日を送る自分を支えるのは、スタッフとの信頼関係や家族の絆であり、それらがエネルギーとなって頑張ってきたことについて、男女共同参画を今まで知らなかったという自身のエピソードを交えながらお話しいただきました。

また、アメリカなど海外では女性経営者が多く活躍し、日本の景気回復には女性の起業が重要とのお話しをいただきました。

④もっと自由に！女と男の共同参画社会

平成23年10月7日（金）

前旭川市男女共同参画担当課長 鳴海良司さん



女と男の共同参画社会とは、性別で決めつけるものから解放され、自由に発想し、のびのびと生きることができるとお話しをいただきました。

また、過労死の9割が男性であるなど、男性も決して生きやすい世の中ではないことから、男性にとっての男女共同参画が重要であると、自身の経験を交えながらお話しをいただきました。

⑤女と男 支えあう日本社会～男女共同参画社会・経済的根拠～

平成23年10月28日（金）

旭川大学短期大学部副学長 教授 藤原潤一さん



大学で将来保育者になる学生に日々講義し、研究、専門とされる男女共同参画。法、制度面の歩みや国際比較について、データや分析報告書等の資料を用いながらお話しをいただきました。

また、これからの日本の社会が元気を出し、若い世代が希望を持って社会に乗り出していくにはジェンダーに係わる女と男の性役割関係の変化が必要になるとのお話しをいただきました。

平成23年度 あさひかわ男女共同参画川柳 入賞作品

本年度で2回目となる男女共同参画川柳の募集を平成23年8月19日～9月20日の期間に行いました。一般の部56作品、小中学生の部235作品、計291作品の応募があり、それぞれの部門で、最優秀賞1作品、優秀賞2作品が選ばれました。

なお、入賞作品に選ばれた方々には、旭川市長から表彰状と記念品を授与しました。

(平成23年10月15日旭川市民文化会館)

【一般の部】

最優秀賞

まかせすぎ 反省こめて さんま焼く 千葉 憲史 さん

優秀賞

支え合う 男女の力が 輝く街 金田 弘子 さん

風習の 殻を捨てよう 男女の差 野口 修二 さん



【小中学生の部】

最優秀賞

家事をする パパの姿に ママ笑顔 東町小6年 柳生 美乃里 さん

優秀賞

子そだては おともできる イクメンだ 東町小5年 谷井 美月 さん

家事仕事 男と女 半分こ 東町小6年 野村 安未花 さん

DVDをご活用ください

グループや職場で、男女共同参画を学ぶための教材として、DVDを無料で貸出し（期間2週間）致します。



1. ポジティブ・アクション (約30分)

[制作・著作 日本経済新聞出版社]

内容：管理職の意識とコミュニケーションの違いで女性の意識がどのように変わっていくのかをドラマで演出しています。ポジティブ・アクションにどのような気持ちで取組めば良いのかを視聴者へ伝え、管理職の意識を変えるきっかけを与える内容となっています。

※旭川ソントクラブから寄贈（平成22年11月）

2. ワーク・ライフ・バランスを知っていますか？ (約25分)[企画 内閣府男女共同参画局]

内容：家庭や会社など身近なところで、ワーク・ライフ・バランスに関する様々な取組みが始まっています。仕事と生活の調和を目指す企業や、仕事と家庭の理想的なバランスを実践する人々の姿をドキュメンタリータッチで紹介しています。

3. 配偶者からの暴力の根絶をめざして

～配偶者暴力防止法のしくみ～ (約35分)

[企画 内閣府男女共同参画局]

内容：配偶者からの暴力（DV＝ドメスティックバイオレンス）の根絶をめざして、「配偶者暴力防止法」のしくみ等についてわかりやすく紹介しています。

連絡先 政策調整課 男女共同参画担当
電話 0166-25-5358

市内男女共同参画団体 リレー紹介②

<団体名>

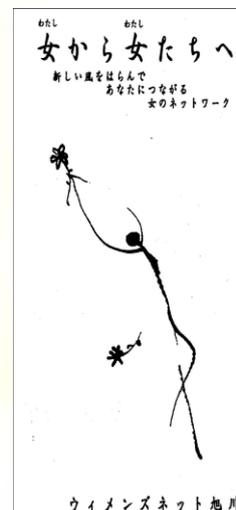
ウィメンズネット旭川 (代表 羽柴多恵子)

<設立目的>

「女性が真に生き生きと生きていける社会の実現」を目指して1996年に設立された女性のグループです。DV被害者の支援をはじめ、上野千鶴子さんなど様々な方を招いての講演会や映画上映会、全国シンポジウムなどを開催しています。

<活動内容>

- 電話相談 月曜～金曜の11:00～16:00
- 駆け込みシェルターの運営
- DV被害者女性の自立支援
- DVに関する講義・講演
- デートDV予防のための講義・講演
- 女性のための講座や講演会の開催
- 会報「SARA」を年4回発行
- その他女性に関わる様々な活動



<これまでの主な活動>

- 1995年 • 北京世界女性会議にNGOとして参加
- 1996年 • サンフランシスコ・シェルタースタディーツアーに参加
- 韓国映画「ナヌムの家」上映とビョン・ヨンジュ監督の講演会開催
- ☆「ウィメンズネット旭川」設立
- 設立記念講演会開催 講師:松井やよりさん
- 1997年 • 講演会「男でもなく女でもなく 私らしく生きる」開催 講師:蔦森樹さん
- 1998年 • 講演会「女(わたし)の体は女(わたし)のもの」開催 講師:上野千鶴子さん
- 2000年 • 世界女性会議(ニューヨーク)に参加
- 2001年 • 「全国シェルターシンポジウムin旭川」を開催
- 映画「百合祭」上映 原作者の桃谷方子さんと監督の浜野佐知さんを招く
- 2002年 • ダンスワークショップを開催 講師:ケイト・パーソンズさん
- 2003年 • 映画「ドメスティック・バイオレンス」上映
- 2004年 • 映画「プリティ・ウーマン」上映
- 2005年 • 映画「ペアテの贈りもの」上映
- 2006年 • 講演会「なぜ男は暴力を選ぶのか」開催 講師:沼崎一郎さん
- 2009年 • 講演会「母と娘にひそむ畏」開催 講師:早苗麻子さん
- 2010年 • 講演会「デートDVとは～愛って束縛?」開催 講師:中島幸子さん

<お知らせ>

15周年記念講演会

「ロスト・インナー・ヴォイス～心の声が聞こえますか?」

日時 2012年2月18日(土) 13:30開演

会場 トーヨーホテル

問合せ・申込先 ウィメンズネット旭川 (24-1388) まで

ウィメンズネット旭川15周年記念講演

『ロスト・インナー・ヴォイス』"Lost inner voice"
～心の声が聞こえますか?～

とき 2月18日(土) 午後1時30分開演 (午後1時開場)

ところ トーヨーホテル 旭川市7条7丁目

参加費 事前申し込み: 800円 当日: 1000円

講師 伊藤敏江さん

(紹介は裏面を)

人の目が気になる
何でも自分で抱え込む
空気が読めないと思う
自分はためだと思いたい
周囲の色をうかがう
頼まれると断れない
何をしても決まらず
あなた好みの私になりたい
ものごとを丸く収めようとする
普通だと思われたい

ロスト・インナー・ヴォイス(LIV)とは、自分の心の声が聞き取れない状態や心が発するメッセージや信号を否定したり、自分の感覚を疑うことをいいます。関係とのコミュニケーションや人間関係は大切ですが、それ以前に大切な自分の心の声を聞いてあげること。心の声には正直な気持ちが存在し、勇気や希望に導く力を持っています。LIVの原因やきっかけはさまざまです。ここで、自分の生き方に目を向け、心の声を聞き直す機会にしてみてくださいいかがでしょうか?

主催: ウィメンズネット旭川 後援: 旭川市教育委員会